

奄美図書館だより

平成27年3月1日発行
第285号 (3月号)
鹿児島県立奄美図書館

〒894-0016 奄美市名瀬古田町1-1 Tel.0997-52-0244

HP address : <http://www.library.pref.kagoshima.jp/amami/>

E-mail address : ama-lib@pref.kagoshima.lg.jp

第11回ネリヤカナヤ創作童話コンクール 受賞作品集 完成

第11回(2014年度)ネリヤカナヤ創作童話コンクールの入賞作品48点(最優秀賞8点、優秀賞18点、佳作22点)と応募者全員の氏名・作品名を掲載した『第11回ネリヤカナヤ創作童話コンクール受賞作品集～奄美の小さな童話作家たち～』が出来上がりました。

今回の作品集には、今年度、天城町で開催されました読書指導者等研修会講師の渡辺順子さんから、「奄美群島で小中高生対象の『創作童話コンクール』が、今この時代に実施されていることを知ったとき、深く感動しました。(中略)学年に応じた創作の力に更に感動しました。受賞の皆さん、おめでとうございます。そしてなによりも全島の小中高生が参加されていることを思い、奄美を舞台に奄美固有の生き物たちと共に、今を生きている事のすばらしさに心打たれています。」とメッセージをいただきました。また、表紙絵は、龍郷町立赤徳中学校3年の豊山咲さんの作品「奄美の唄」(「第65回鹿児島県図画作品展」入選)です。

作品集は、大島地区の小・中学校、高等学校、大島養護学校、県内の市町村立図書館、公民館図書室へ配布いたします。また、県立奄美図書館でも、1階児童閲覧室・2階郷土コーナーにて閲覧・貸出をいたしますので、ぜひ、読んでいただきたいと思います。奄美の豊かな風土・自然に抱かれて育った子どもたちのすばらしい感性を感じることができると思います。

なお、第1回からのネリヤカナヤ創作童話コンクール応募作品のすべては、県立奄美図書館にて製本・保存しており、いつでも閲覧することができます。そして、第1回から第10回までの受賞作品集も閲覧・貸出をすることができます。

最後になりましたが、第11回ネリヤカナヤ創作童話コンクールの実施と作品集発行にあたり、御理解と御協力をいただきました関係者の皆様に深く感謝を申し上げます。



課題解決型図書館の利用

近年、図書館の役割として、本の貸出を中心としたものから、地域の知の拠点となり、個人や地域の課題を解決していくため、情報や資料を収集し、関係する人と人をつなぐという役割が、求められるようになってきました。奄美図書館としても地域の皆様が、どのような分野に関心をもっておられるかを検討するため、一昨年、アンケート調査を実施し、「課題解決支援コーナー」を設置することとしました。

利用者の方々の要望の多かったのが2階の閲覧室に設置してあります「子育て・教育支援コーナー」です。子どもの名付け法から離乳食、初めての育児などの本を取りそろえています。また、ファミリーサポートセンターからのチラシもおいてありますので、御利用ください。

その隣には、「医療・福祉支援コーナー」があります。最先端の医療や福祉の法律、年金相談、介護サービスなどに関する本を集めました。



この二つのコーナーの裏側に、「ビジネス支援コーナー」があります。資格取得や会社を設立する方法、企業情報、なるにはシリーズ、面接の受け方、ビジネス文書などの本が並んでいます。特にこれから職業を選んだり、事業を起こそうと考えていたりする若い人たちに利用してほしいと思います。ソファもありますのでゆったりと読むことができます。

そしてその横には、「進学支援コーナー」があります。過去5年分の鹿児島県公立高等学校の入試問題や大学受験雑誌、各高校や大学、専門学校の入学案内パンフレットが置いてあります。4階学習室に来たついでにぜひ立ち寄ってください。

方言の日

2月18日(水)は方言の日でした。奄美図書館では、2月21日(土)に奄美民話の会代表の嘉原カヲリさんを講師に「ふるさとの民話・わらべうたであそぼう」を開催しました。会では、奄美の民話「けんむんのがぶとり」を奄美の方言で読み聞かせしたりわらべうた「ていんみやていんみや」「もーりもり」「ぶとうてらざ」等を手あそびしたり遊んだり終始笑顔溢れる時間となりました。

奄美図書館内では、奄美の方言にまつわるポスター掲示や3階閲覧室に方言カルタの展示等をしていました。方言カルタについては今後も館内で閲覧することはできます。来年度も方言の日に関する館内展示を行いますのでぜひご覧ください。



インターンシップ 職場体験学習



奄美図書館では、毎年、高等学校・中学校の生徒がインターンシップ、職場体験学習を行っています。平成26年度も、志学館大学・奄美高等学校・赤徳中学校・龍北中学校・赤木名中学校・龍南中学校・名瀬中学校・金久中学校・朝日中学校・小宿中学校・大島養護学校の11校27名の生徒が、カウンター業務・本の装備・新聞製本作業・書庫の整理・「おはなしの森」での読み聞かせ等の様々な仕事を体験しました。

終了した時には、「お客さんが本を手にとるときに探しやすいようにいろいろな工夫がされていて驚きました。お客さんとしてではなく、実際に働いてみると学ぶことがすごく多かったです。」「本の読み聞かせはとても緊張しましたが、終わると達成感があり心地よかったです。」「本を借りて読む人に見つけやすいように配架、整架したり、昔の新聞を製本したりしながら、お客さんが利用しやすいようにいろいろな仕事をこなしていることがわかりました。また、貴重な本や資料を保管して大切にしていることは初めて知りました。」等の感想も聞くことができました。一人一人が仕事の大変さや楽しさを味わったり、図書館の役割について考えたりして、多くのことを学んでくれたと思います。職場体験での経験を、今後の学校生活や職業選択などに活かしていただけたらありがたいです。



3月の行事カレンダー



月	日	曜	行事・催し
3	2	月	休館
	4	水	おはなしの森 15:30～
	9	月	休館
	11	水	おはなしの森 15:30～
	16	月	休館
	18	水	おはなしの森 15:30～
	21	土	あまみ子どもライブラリー 10:00～
	23	月	休館
	25	水	休館（整理研修日）
	30	月	休館
4	19	日	一日図書館長 こどもの読書週間企画展～5/10
	26	日	本もともだちおはなし会

レファレンス・サービス

レファレンス（調査相談）とは、図書館に寄せられた質問・相談について、図書館の資料と機能を活用し、質問者を援助することをいいます。県立奄美図書館では、毎月、約300件のレファレンスを受けています。

調査は、県立奄美図書館が所蔵する全ての資料を用いて行います。ただし、当館で資料を発見できず、適切な回答ができない場合は、関係資料を所蔵している図書館または関係機関、もしくは専門家に照会するか、質問者にそれらを紹介しています。

レファレンスは、2階カウンターで受け付けています。また、電話・ファックス・文書・Eメールでのレファレンスも受けておりますので、お気軽にご相談ください。

4月の休館日予告

6日(月)・13日(月)・20日(月)

24日(金)・27日(月)

今月の新着図書コーナー

読書の風を
奄美から

児童

ぼくとお父さん

清水 千恵

文研出版

マクベス

ウィリアム・シェイクスピア あすなろ書房

パンダ銭湯

tupera tupera

絵本館

日本の発明・くふう図鑑

発明図鑑編集委員会

岩崎書店

砂漠のナイチンゲール

メアリー・ポープ・オズボーン KADOKAWA

試合で勝てる！小学生の卓球上達のコツ50

原田 隆雅

メイツ出版

その他9冊

郷土関係

仏燈は消えず

出水沢 藍子

あさんて一な

鳥が見た沖縄の世界遺産

フジデンシ出版

その他6冊

おすすめの本

てぶくろ

いもと ようこ

講談社

寒い雪の日、手袋を持っていないみみたんがお姉ちゃんに「手が冷たいよー。お姉ちゃん、手袋を貸して！」と言うと、お姉ちゃんは、片方の手袋を渡しました。でも、もう片方の手が冷たいのです。みみたんは、またお姉ちゃんに「もう片方も貸してー！」と言いました。すると、お姉ちゃんは黙ってみみたんの手を握り、「こうして手をつなげば、暖かいでしょ！」と言ってぎゅっと握りました。みみたんもぎゅっと握り返しました。そうすると、もっと暖かくなりました。「こうしていれば、手袋は一つでいいんだね！」と嬉しそうです。そこにおばあちゃんも迎えに来たので、おばあちゃんを真ん中にして3人で手をつなぎました。そして、もっといっぱい的人数で手をつないでも手袋は一つでいいんだね！と言って次々に出会った人と手をつないでいき、最後には、一つの輪になり手袋はいらなくなりました。

一般

子どもの読書力を育てる学校図書館活用法

渡辺 暢恵

黎明書房

そうだったのか！朝鮮半島

池上 彰

ホーム社

英語でお仕事デビュー！

デイビッド・セイン

秀和システム

その他106冊

小説・随筆

エドガー・アラン・ポーの復讐

村山 淳彦

未来社

秋たちめ

寺山 修司

岩波書店

注文の多い美術館

門井 慶喜

文藝春秋

時は移り、時は実る

坂東 眞理子

風心社

その他17冊

進学・ビジネス支援

作業療法士になるには

濱口 豊太

ぺりかん社

その他2冊

超訳 吉田松陰語録

斉藤 孝

キノブックス

吉田松陰は、山口県出身で10歳の時に長州藩の藩校・明倫館で教え、25歳で叔父の開いた松下村塾で講義を始めています。門下生には、高杉晋作、伊藤博文、山県有朋など幕末から明治維新にかけて活躍した優秀な人たちがたくさんいます。

この本では、常に「国のために、世のため人のために何ができるか」を考えて行動した吉田松陰の言葉をわかりやすく現代風に翻訳された形になっています。だれにでも読みやすくなっていると思います。ぜひ一度、手にとってみてください。